

ECALGA

ECALGAを支える 情報技術基盤の紹介

情報技術委員会

JEITA
EC CENTER

ECALGA

目次

1. 情報技術委員会の活動について

- ・情報技術委員会の活動
- ・EDIビジネスインフラ構築の取組
- ・2011年実証実験の課題/要望と情報技術委員会の対応

2. JEITA 共通クライアントの改定について

- ・共通クライアントの概要と利用状況
- ・2011年度改定内容について

3. ASP標準化WG活動状況報告

- ・ASP間連携の目指す世界
- ・ASP間運用標準ガイドライン Ver2.0(改訂版)のリリース

4. JEITA Web-EDI認定活動状況報告

- ・認定制度の概要
- ・認定基準の見直し Ver2.0 のリリース(2011年9月)と認定状況

目次

1. 情報技術委員会の活動について

1-1 情報技術委員会の活動

1-2 EDIビジネスインフラ構築の取組み

1-3 2009年度経産省ビジネスインフラ実証事業の概要

1-4 ビジネスインフラとしてのEDIの現状

1-5 2011年実証実験の課題/要望と情報技術委員会の対応

1-1 情報技術委員会の活動

ECセンタ 2011年度 重点取組 テーマ

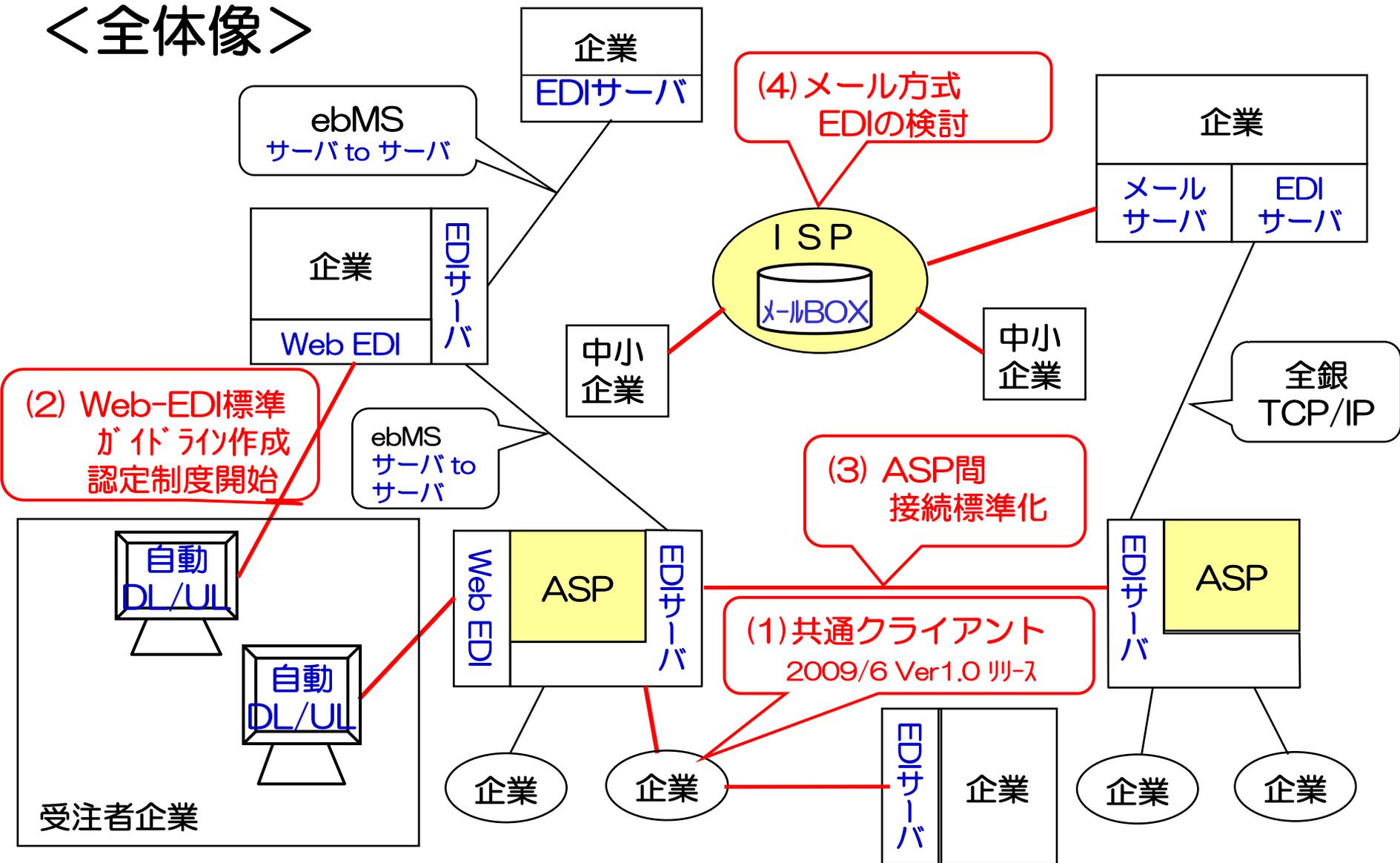
- 1) 業際化への対応: 企業間で環境情報の流通、共有化を促進するための実用化基盤を整備
 - ・ アーティクルマネジメント推進協議会(JAMP)との連携
 - ・ 自動車業界との業際EDI(SCM取引)の検討推進
- 2) 国際化への対応
- 3) ECALGA実用化の促進
- 4) 中堅・中小企業への対応
- 5) 標準の維持管理体制の整備

情報技術 委員会 活動方針

- 1) 業際化の深耕、利用者利便性の追求を中心としたビジネスインフラの技術面からの検証と標準の策定
 - ・ ASP間運用標準ガイドライン(運用ルール編)の完成
 - ・ 2011年環境及び技術情報交換実証実験の要求反映
- 2) 中堅中小企業への対応
 - ・ JEITA共通クライアントのバージョンアップ、普及促進
 - ・ Web-EDI認定活動の推進、及び基準、プロセスの改善

1-2 EDI ビジネスインフラ構築の取組み('07~' 10)

<全体像>



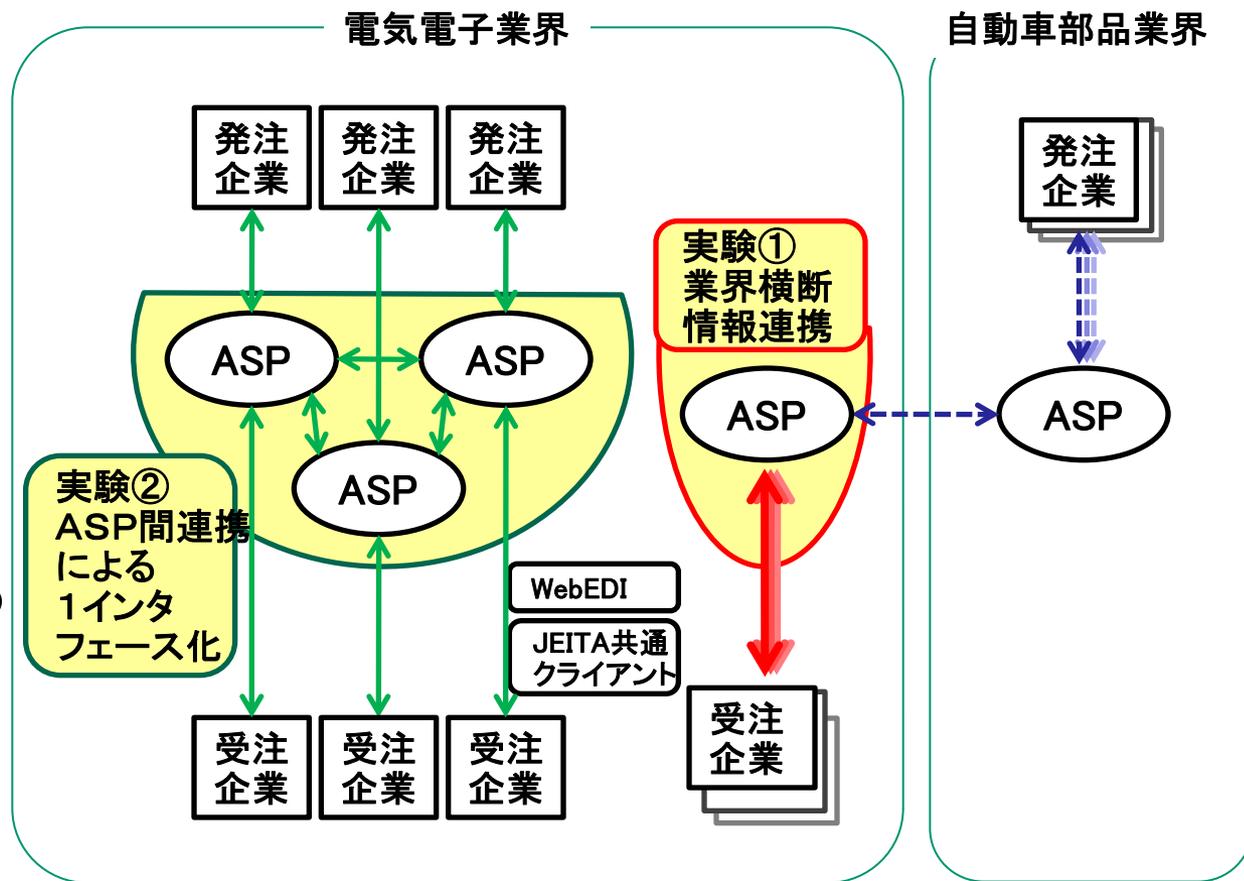
1-3 2009年度経産省ビジネスインフラ実証事業の概要

JEITAは、「業界横断情報連携」「ASP間連携」の2つの観点から、
 「受注企業にとって複数の業界の発注企業と1つのインタフェースでEDIを実現する」
 環境の実現を目指し、実証実験を実施。

【実験①】
 業界を横断するEDIを
 実現するための
 ビジネスプロセス調整と
 業界横断メッセージ作成

特に、自動車部品業界との
 業界横断情報連携の実証実験

【実験②】
 受注企業のEDI接続を
 1インターフェース化するための
 ASP間連携の実証実験

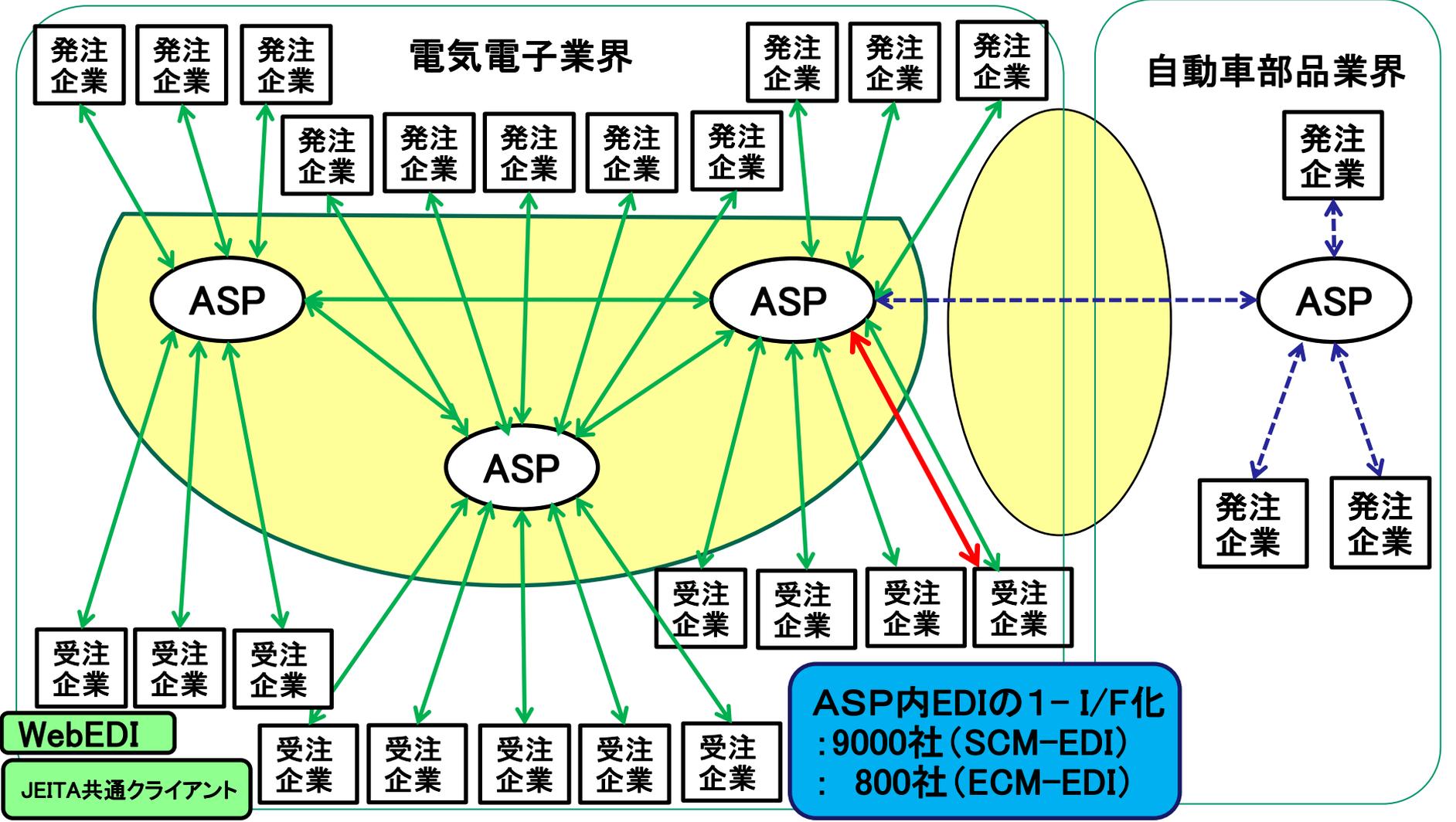


↔ :業界横断フォーマット
↔ :業界標準フォーマット
- - - :業界代表企業フォーマット

1-4 ビジネスインフラとしてのEDIの現状

発注/受注企業双方でEDI の1インターフェース化が進む

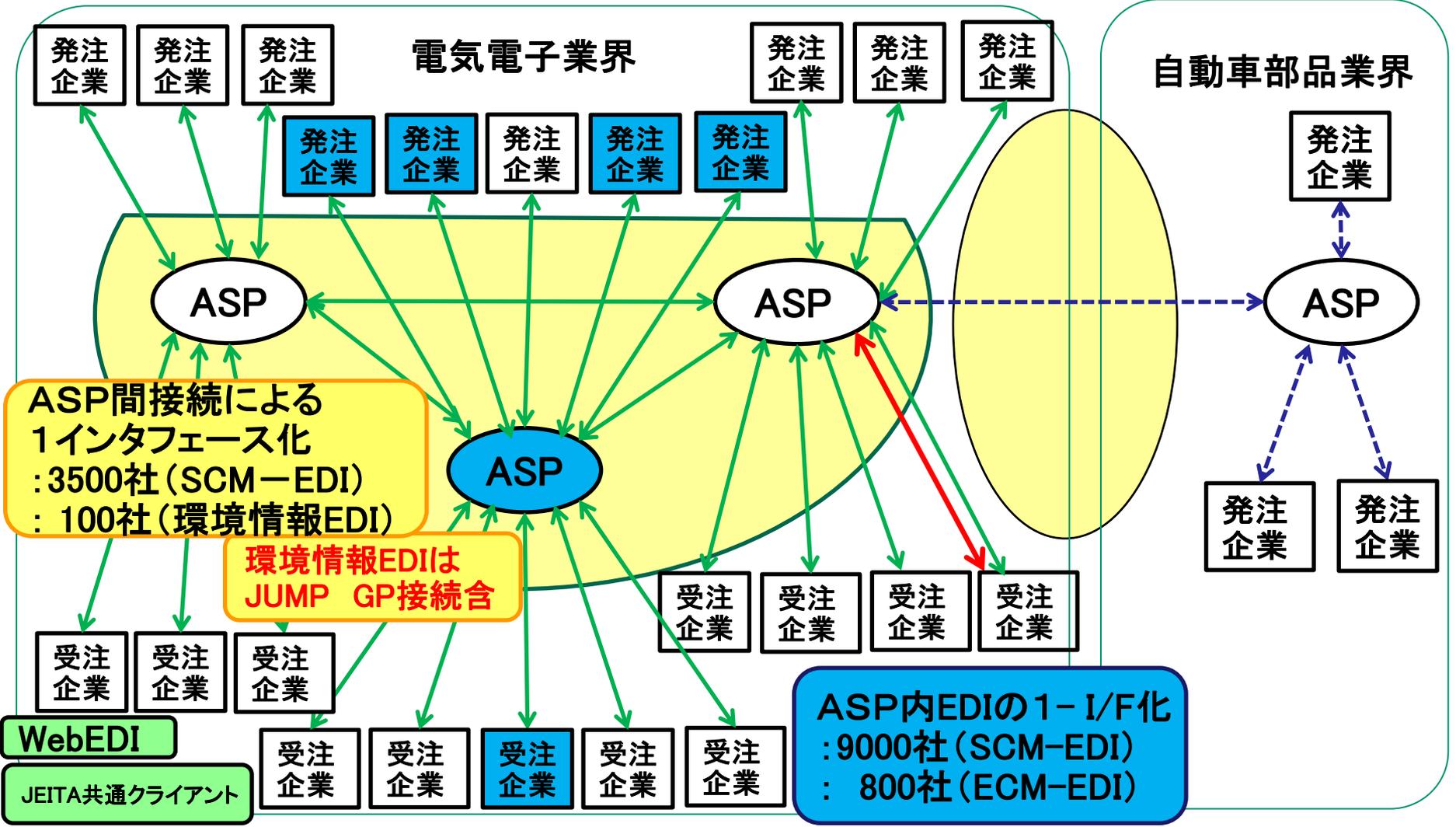
↔ : 業界横断フォーマット
↔ : 業界標準フォーマット
- - - : 業界代表企業フォーマット



1-4 ビジネスインフラとしてのEDIの現状

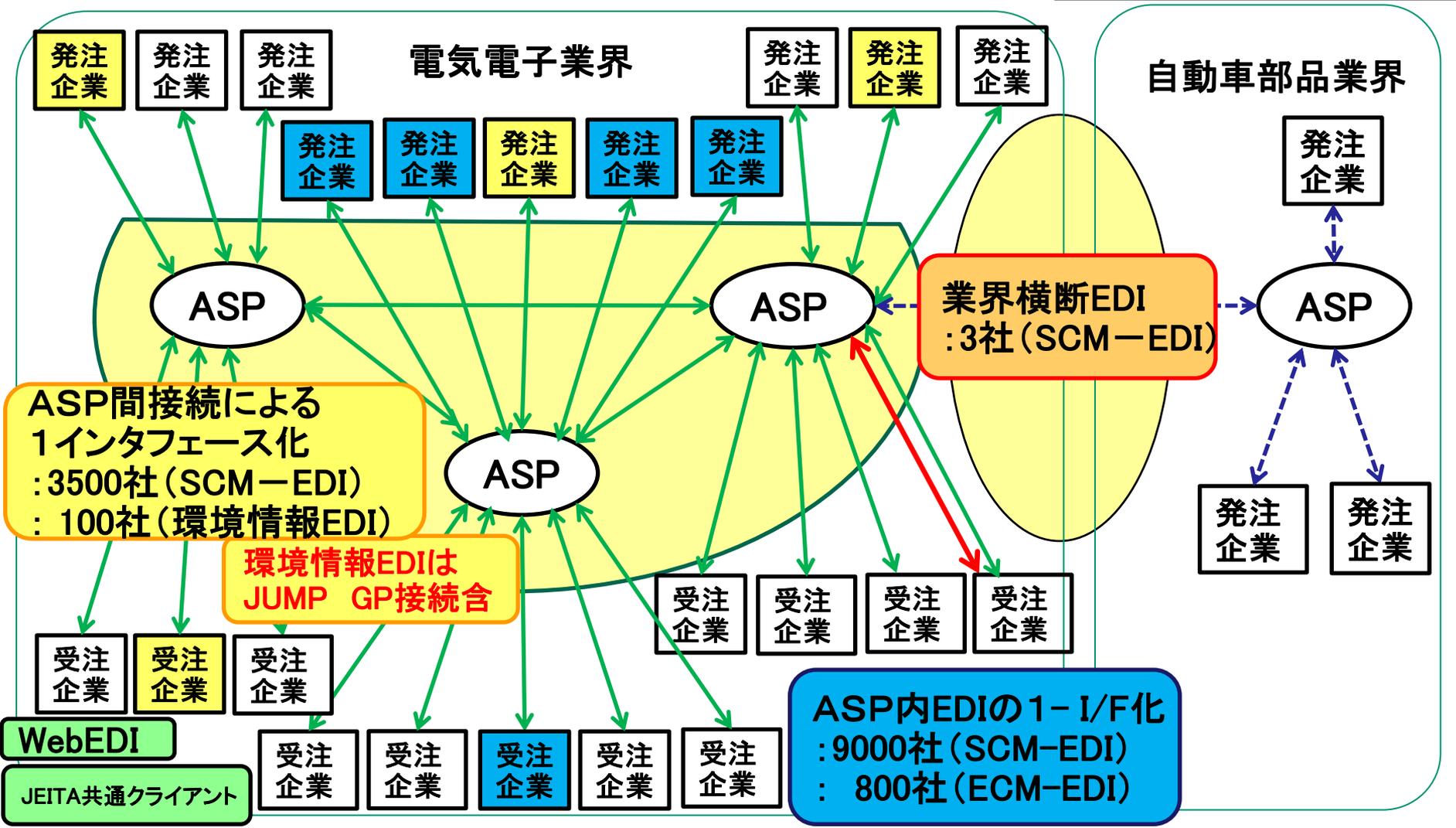
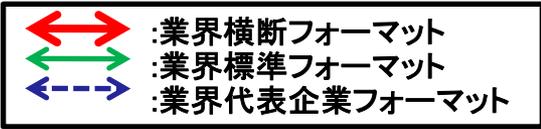
発注/受注企業双方でEDI の1インターフェース化が進む

↔ : 業界横断フォーマット
↔ : 業界標準フォーマット
- - - : 業界代表企業フォーマット



1-4 ビジネスインフラとしてのEDIの現状

発注/受注企業双方でEDI の1インターフェース化が進む



1-5 2011年実証実験の課題/要望と対応(1/2)

● 環境及び技術情報交換実用化にむけた実証実験結果への対応検討状況

- ① JEITA共通クライアントやビジネス確認メッセージの取り扱い等を継続検討
- ② ASP間運用標準ガイドラインに追加規定

(2012年度以降改訂含)

評価項目(大分類)		主な課題・要望等
BtoB交換 実装環境の 検証	Web-EDI モデル	<ul style="list-style-type: none"> *データフォーマット形式(XML/CII)を、依頼・回答企業間、及びASPとの間で取り決めが必要。 *受信データのクライアント側へのダウンロード機能が欲しい。 *依頼が無くても、提供側から発信できる機能が欲しい。
	ASP間接続 及び ASP間 連携モデル	<ul style="list-style-type: none"> ☆ASP間運用標準ガイドラインに障害対応とエラー通知仕様を規定。 *ASP内の処理でエラーが発生した場合、送信者側にエラー内容を返す機能が欲しい。 *エラー発生した場合の解り易い対応マニュアルが欲しい。 *送受信確認のため、ASP内処理の履歴を確認したい。 ★来年度、ビジネス確認メッセージ取り扱いを含め継続検討。 *1つのビジネスドキュメントIDや情報区分で実施すると送受信データの管理が複雑になるので、送信と受信でビジネスドキュメントIDや情報区分を分けて欲しい。 *最低限必要なメッセージ、オプション等のメッセージが分かるようにして欲しい。 *中間業者(商社、代理店等)を経由する場合のビジネスモデルの明確化。
	JAMP-GP 接続モデル	<ul style="list-style-type: none"> ☆JEITA標準クライアントガイドラインに障害対応とエラー通知仕様を規定。 *複数添付ファイルを取扱いたい。 *商社等の中間業者が介在した場合のビジネスモデルの明確化。

1-5 2011年実証実験の課題/要望と対応(2/2)

関連ツールの 検証	JEITA共通 クライアント	<p>★複数添付ファイル格納時のJEITA共通クライアントの改定実施</p> <p>★来年度、マニュアルの改訂を含め継続検討予定</p> <p>*添付ファイルを格納する際の、ホルダー名の継承と、ファイル処理の取扱い方法の明確化。</p> <p>*添付ファイルを送信する際の、解り易いマニュアル整備。</p> <p>*エラー発生した場合の解り易い対応マニュアルが欲しい。</p>
	XMLメッセージ 作成支援ツール	<p>*必須項目が分かる様にして欲しい。</p> <p>*項目属性(文字、長さ、日付等)の画面表示が欲しい。</p> <p>*ビジネスドキュメント標準情報の取扱いと適用の明確化。</p> <p>*入力内容のチェック機能を付加したい。</p>
	XML/CII変換ツール	<p>*特殊な作業時にエラーが発生する。改善をが必要。</p> <p>*ユーザがファイル名を自由に設定したい。</p>
	ECALSデータ 作成支援ツール	<p>*データ形式(CSV/XML)の統一化、或いは相互変換機能を追加して欲しい。</p> <p>*Data TypeがENUM項目のプルダウン化等、入力作業を簡便化して欲しい。</p>
メッセージ フォーマット	XMLフォーマット	<p>*過不足項目が無いが、再度ビジネスドキュメントの見直しが必要。</p> <p>*新しいBD(明細)の中で定義が明確でないものがある。</p>
	CIIフォーマット	<p>★来年度、ASP当事者間調整事項の取り扱いを含め継続検討予定</p> <p>*「分割可変長モード」と「分割固定長モード」を依頼者側と回答側で事前の取り決めが必要。</p>
	添付ファイルの 実装	<p>☆ASP間運用標準ガイドラインに、添付ファイル仕様を規定。</p> <p>*添付ファイル容量制限の上限の取り決め及びガイドラインが必要。</p>
全体プロセス	業務管理	<p>*運用簡略化のため、ツール間の連携処理が出来ないか？</p>

— 目 次 —

2. JEITA共通クライアントの改定について

2-1 JEITA共通クライアントとは

2-2 利用状況について

2-3 改定について

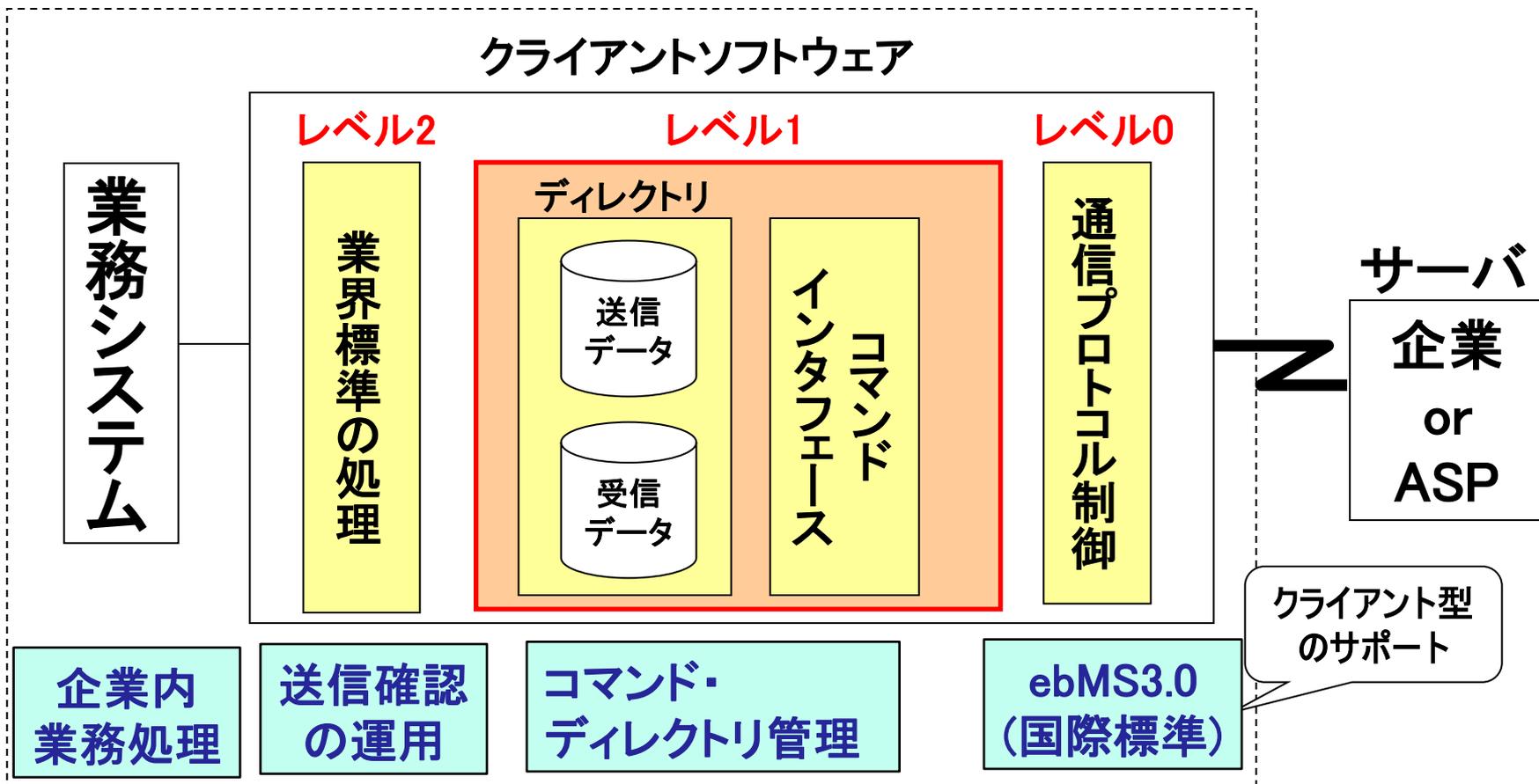
2-4 入手方法

2-1 JEITA共通クライアントとは(1/2)

◆ ECALGA2007Aに新規追加したebMS3.0対応の無償クライアントソフト

◆ ソフトウェアの機能概要

- ・ レベル0：通信プロトコル制御⇒国際標準ebMS3.0(Pull型)準拠
- ・ レベル1：送受信コマンド制御とファイル管理
- ・ レベル2：業界標準ビジネスプロセス管理／運用制御

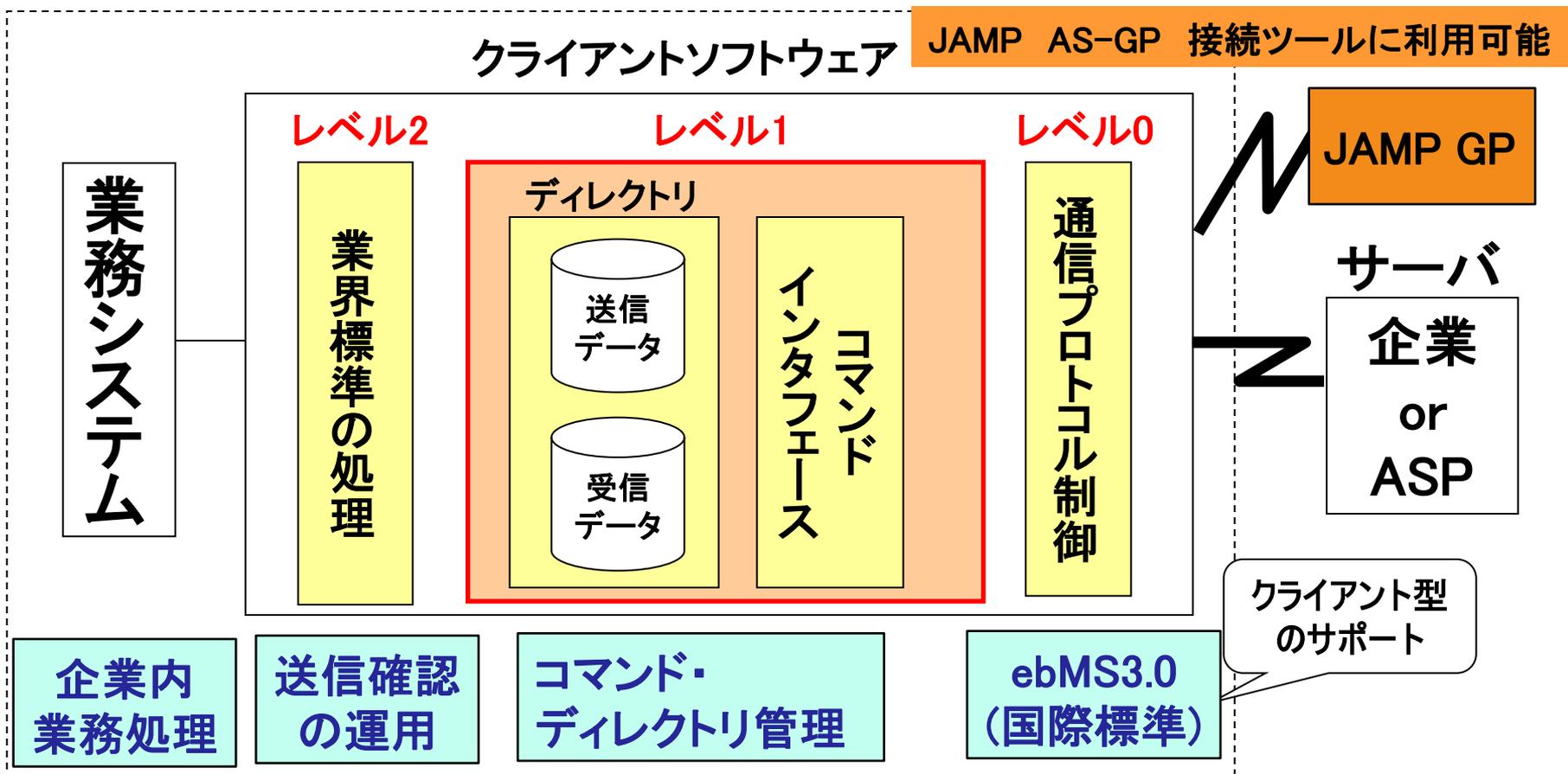


2-1 JEITA共通クライアントとは(2/2)

◆ ECALGA2007Aに新規追加したebMS3.0対応の無償クライアントソフト

◆ ソフトウェアの機能概要

- ・ レベル0：通信プロトコル制御⇒国際標準ebMS3.0(Pull型)準拠
- ・ レベル1：送受信コマンド制御とファイル管理
- ・ レベル2：業界標準ビジネスプロセス管理／運用制御



2-2 JEITA共通クライアントの利用状況

1) JEITA共通クライアントの利用環境条件

- ・リリース日: 2011年2月25日 (Ver2)
- ・動作環境: ebMS3.0 対応正式版
OS、JavaVersion下記組合せ対応版のクライアントソフトを提供
対応OS : Windows7, WindowsVista, WindowsXP SP3.0
Java version: 1.5, 1.6
- ・利用範囲: 国内利用に限定
- ・費用: 無償

2) JEITA共通クライアントの提供状況

- ・累計Down-Load数 : 96件
Ver1 (Java Version 1.5対応版) : 73件 (2009/6/3 リリース～2011/2/24)
Ver2 (Java Version 1.5, 1.6対応版) : 23件 (2011/2/25リリース～)

2-3 JEITA共通クライアントの改定について

1) Ver2.1 改定内容

- ・複数添付ファイル送信時の仕様追加
仕 様:ファイル名でソートして添付する順序を決定する。
- ・プロキシサーバ接続時対応条件の緩和
内 容:CONNECT電文における、改行コード、CRLF に LF を追加
仕 様:設定ファイルで改行コードを指定できるように機能追加
当該設定を行わない場合、前バージョンと同じ動作(CRLF)

2) Ver2.1 リリース

- ・リリース日:2012年2月1日 (Ver2.1)
- ・動作環境:ebMS3.0 対応正式版
OS、JavaVersion下記組合せ対応版のクライアントソフトを提供
対応OS :Windows7, WindowsVista, WindowsXP SP3.0
Java version: 1.5, 1.6
- ・利用範囲:国内利用に限定
- ・費 用:無 償

2-4 JEITA共通クライアントの入手方法

・D/L手順:

JEITA HPより、共通クライアントソフトD/Lページに遷移し、利用規約の内容に同意の上、名刺情報を入力しD/L下さい。

The screenshot shows the JEITA website interface for downloading common client software. The main content area is titled '共通クライアント' (Common Client) and includes the following text:

共通クライアントソフトウェアダウンロード(2/4): 名刺情報入力

- 登録に先立ち、「JEITA共通クライアントソフトウェア利用規約」に同意しました。
- お客様のお名前、ご住所等、下記項目に入力して下さい。
- 英数字は、全て半角で入力して下さい。
- カタカナ、ひらがな、漢字は全て全角で入力して下さい。
- 入力をすべてやり直す場合は「消去」ボタンで、全ての項目をリセットして下さい。

Below the text is a form with the following fields:

企業名称【必須】	<input type="text"/>
部署・役職1	<input type="text"/>
部署・役職2	<input type="text"/>
氏名【必須】	<input type="text"/>
郵便番号【必須】	〒 <input type="text"/>
住所1【必須】	<input type="text"/>
住所2	<input type="text"/>

Input examples are provided: 入力例：(社)電子情報技術産業協会 (全角で入力してください。)

入力例：東京都千代田区西神田3-2-1

The diagram illustrates the software's operation: 企業 (Company) connects to クライアントPC (Client PC) via インターネット (Internet). The Client PC runs 共通クライアントソフトウェア (送受信機能に特化) (Common Client Software, specialized for transmission/reception). This software communicates with a サーバ (ASP or 企業) (Server) to exchange EDIデータ (EDI Data).

Additional notes include: 「通信プロトコルは国際標準eXML ebMS V3.0に準拠」 (Communication protocol conforms to international standard eXML ebMS V3.0) and a red box highlighting the link: **【共通クライアントソフトウェアダウンロード】**

— 目 次 —

3. ASP標準化WG活動状況報告

3-1 目指す世界

3-2 ASP間運用ガイドライン の改訂内容

3-3 環境及び技術情報交換実証実験 評価による改訂

3-1 目指す世界

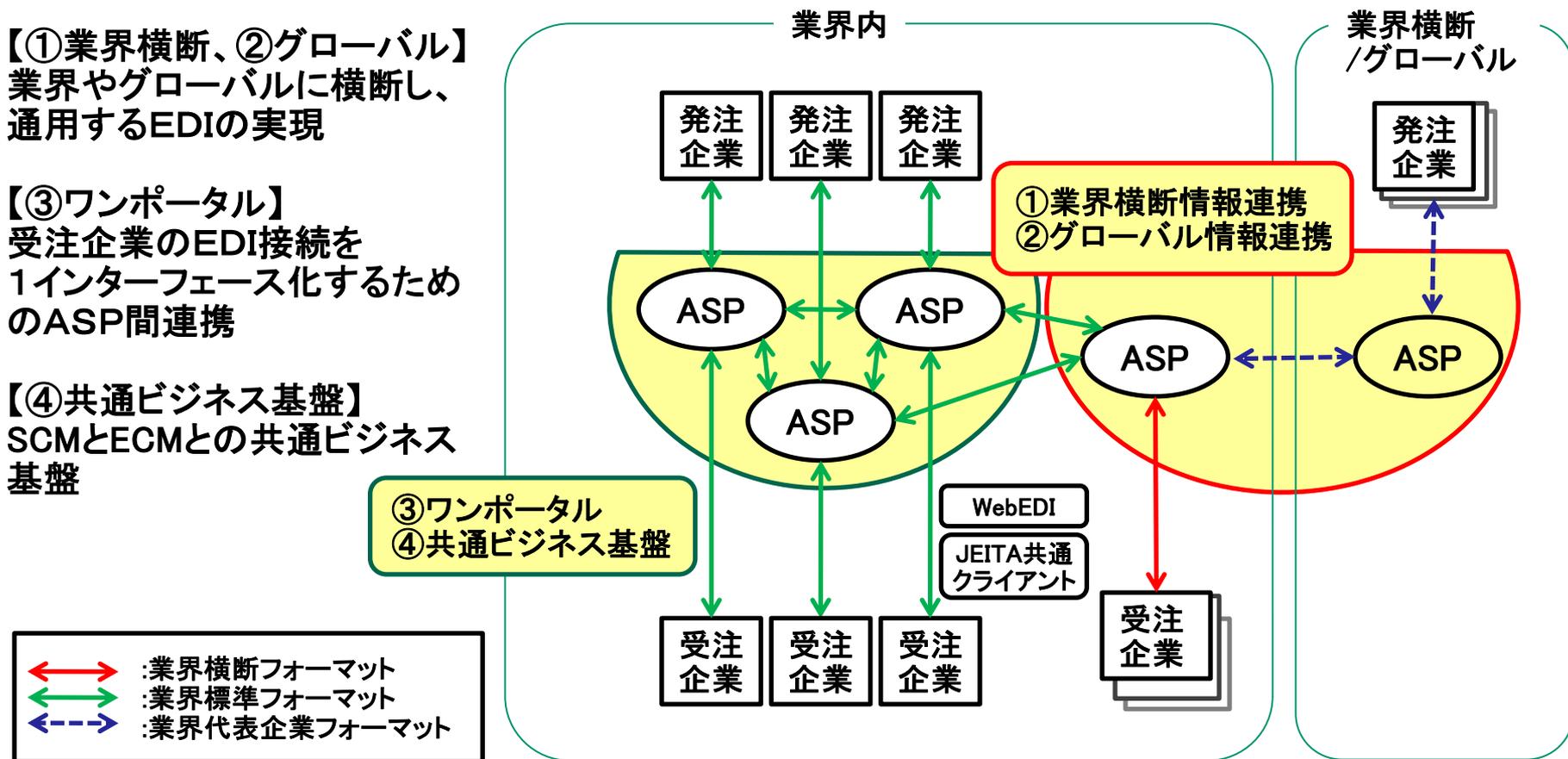
3-1 ①目指す世界

ASP間連携は、「SCM、ECMなどの業界内情報連携」はもちろんのこと、「業界横断情報連携」、「グローバル情報連携」の2つの観点を含め、「受注企業及び発注企業の何れにとってもメリットのある、複数の業界の複数企業と1つのインターフェースでEDIを実現する共通のビジネス基盤」の実現を目指す。

【①業界横断、②グローバル】
業界やグローバルに横断し、
通用するEDIの実現

【③ワンポータル】
受注企業のEDI接続を
1インターフェース化するため
のASP間連携

【④共通ビジネス基盤】
SCMとECMとの共通ビジネス
基盤



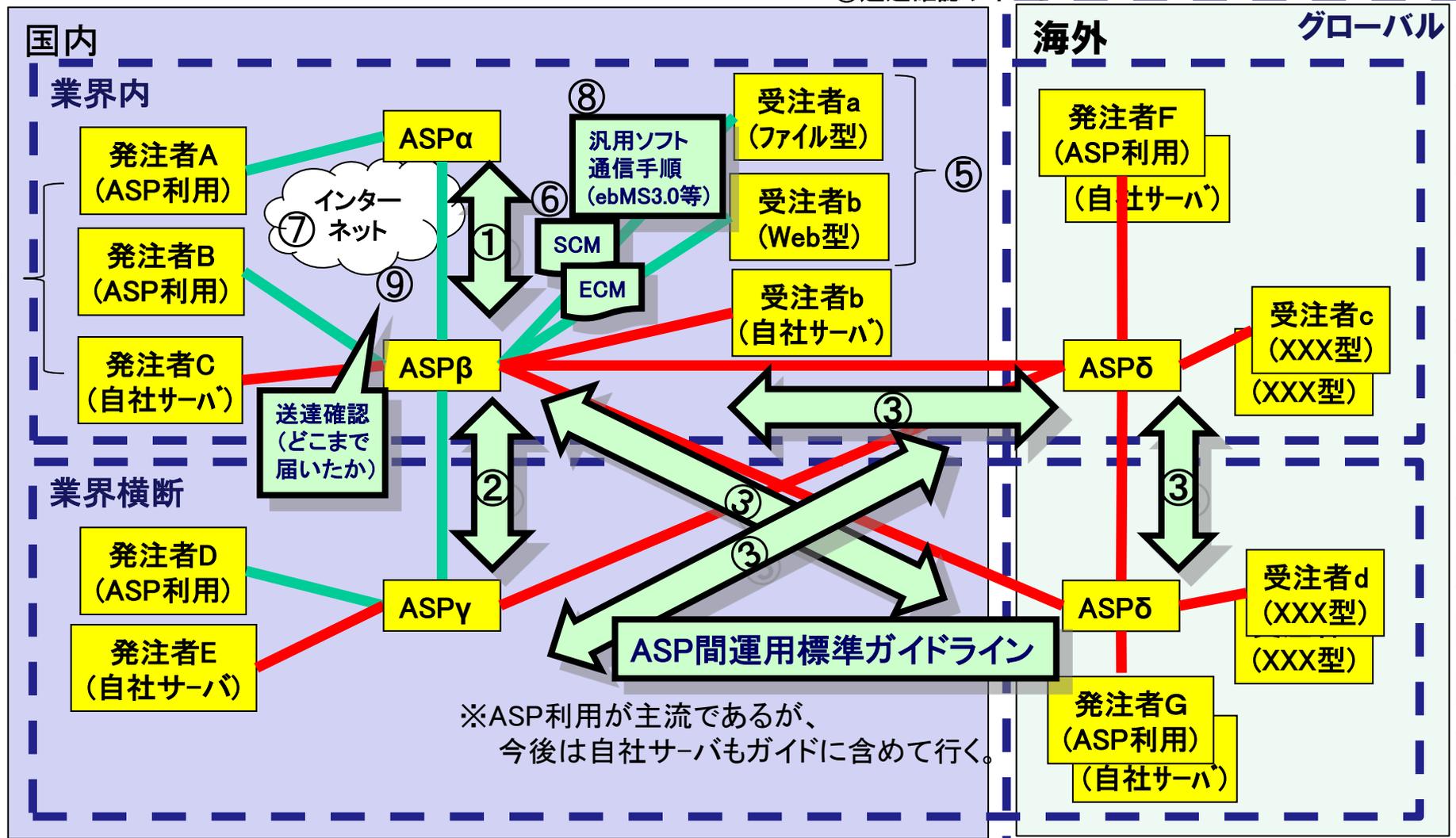
3-1 ②ASP間連携によるグローバルに通用するEDI

- グローバルにワンポータル**
- ① 業界内での1インタフェースEDI
 - ② 業界横断での1インタフェースEDI
 - ③ グローバルでの1インタフェースEDI

- 共通ビジネス基盤**
- ④ ASP型および自社サーバ型のサポート
 - ⑤ ファイル型およびWeb-EDI型のサポート
 - ⑥ SCMおよびECMサポート

- 共通通信基盤**
- ⑦ インターネットでの信頼性保証
 - ⑧ 通信手順サポート、セキュリティ維持、2重送信防止
 - ⑨ 送達確認サポート

—:実施済
—:今後

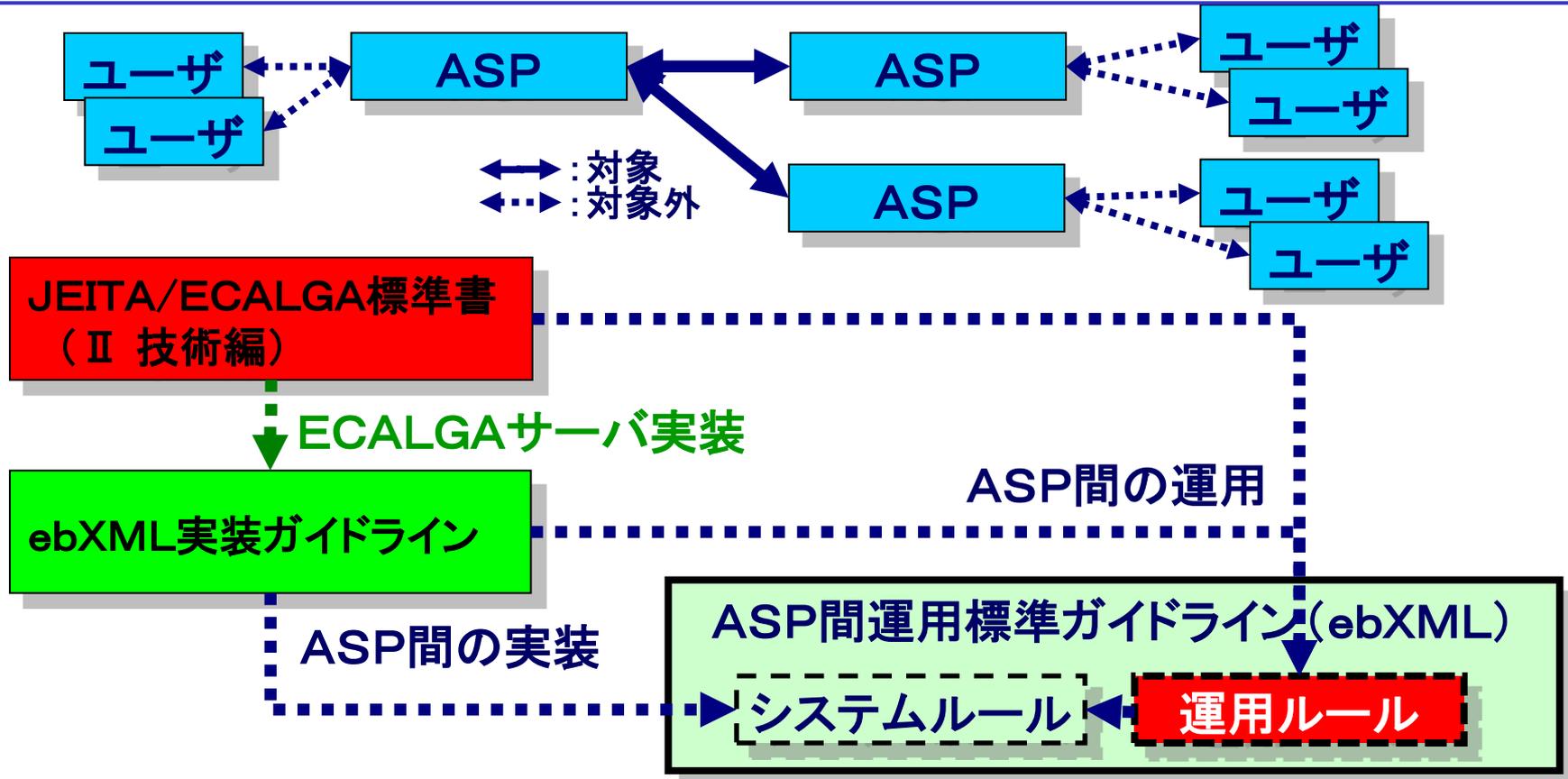


3-1 ③ガイドラインの強化

ASP間運用標準ガイドライン(システムルール)に、運用ルールを強化し、実用性を意識した規定にした。

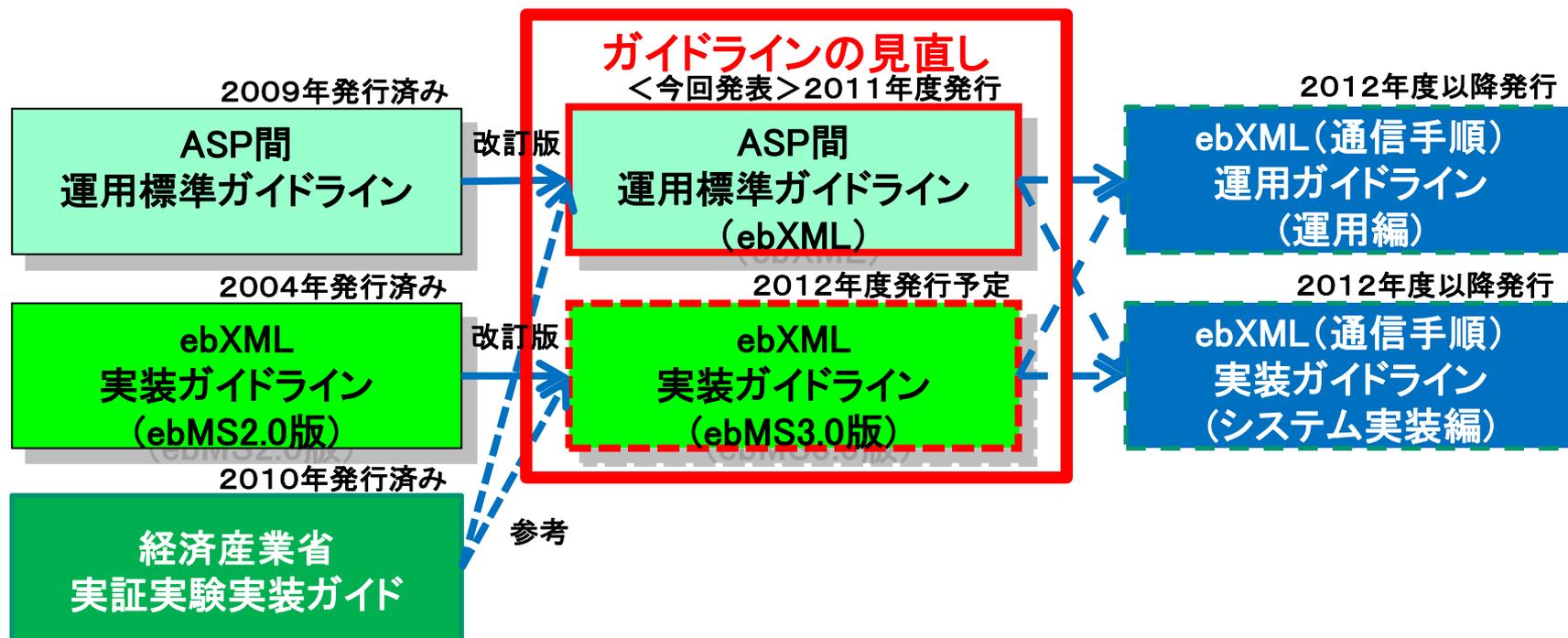
- 位置付:「JEITA/ECALGA標準書(Ⅱ技術編)」と「ebXML実装ガイドライン」の補足ガイド
- 狙い:複数ASPの接続を通して、ユーザが業務を遂行するための、ASP間の運用のガイド
- 内容:ASP間接続の運用規定として、従来のシステムルールに運用ルールを追加規定した(今回発表)。

・システムルール:「ebXML実装ガイドライン」の延長上に、ASP間における実装上の運用規定
・運用ルール:「ebXML実装ガイドライン」や「本ガイドのシステムルール」のASP間運用規定



3-1 ④ガイドラインの見直し

- 今年度は、ebXML実装ガイドラインとASP間運用標準ガイドラインの見直しを実施した。今後は、ガイドラインの対象範囲を、ASP間やASP-ASPユーザ間を含めたシステム実装と運用規定に、再構成して行く予定である。
- **ASP運用標準ガイドライン**: 運用ルールを強化し、改訂版発行
環境・汎用技術情報交換の実証実験で実証し、実験結果を反映した。
- **ebXML実装ガイドライン**: 改訂着手、ebMS3.0版としてバージョンアップ予定
既存のebMS2.0版は凍結扱いとし、今後の利用は3.0版を基準とする。



3-1 ⑤ガイドラインの改訂版の発行

● ASP間運用標準ガイドラインの改訂版Version 2.0の発行

- 従来の1章から3章までのシステムルールに、4章から6章までの運用ルールを加え、改訂版として発行する(今回発表)。1～3章(2009年発行+今回改訂)、4～7章(追補)。

	章名称
1章	目的と位置付け、標準化の範囲
2章	ASP間接続利用形態、従来VAN 間接続との違い、通信手順、ASP間接続振り分け機能
3章	転送機能、CPA及びBPSS管理
4章	送達確認について
5章	責任分界点、料金
6章	障害対応、エラー通知
7章	テスト方法

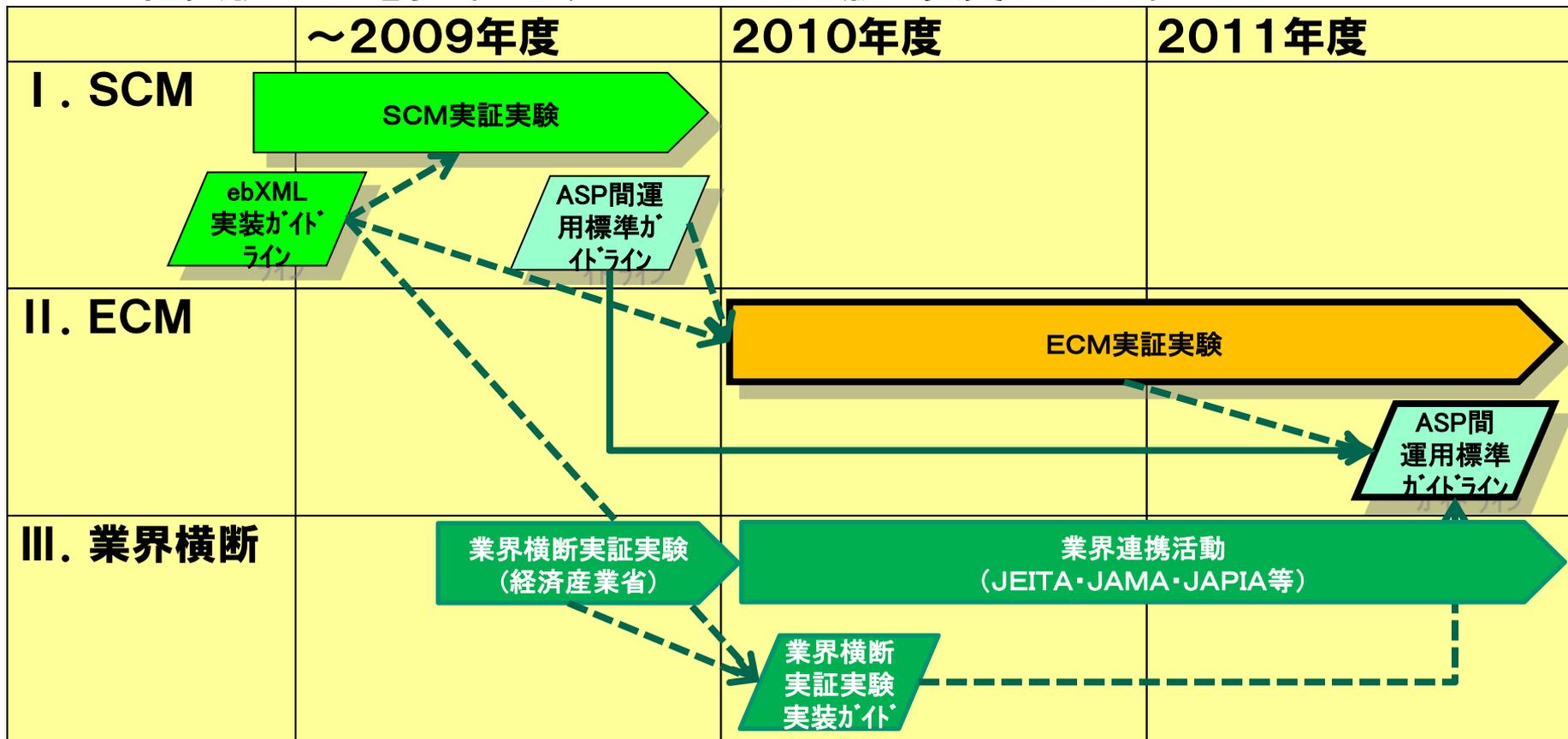
● ebXML実装ガイドラインの改訂に着手

- 従来のebMS2.0対応の実装規定に対して、ebMS3.0対応の実装規定に変更し改訂版として発行する(2012年度発行予定)。なお、下記は現在の目次構成で変更することがあります

	章名称
1章	目的
2章	ebXML手順実装ガイドライン概要
3章	メッセージ形式について
4章	CPAについて
5章	BPSSについて
6章	BPSSとebMSの連携について
7章	テスト手順について

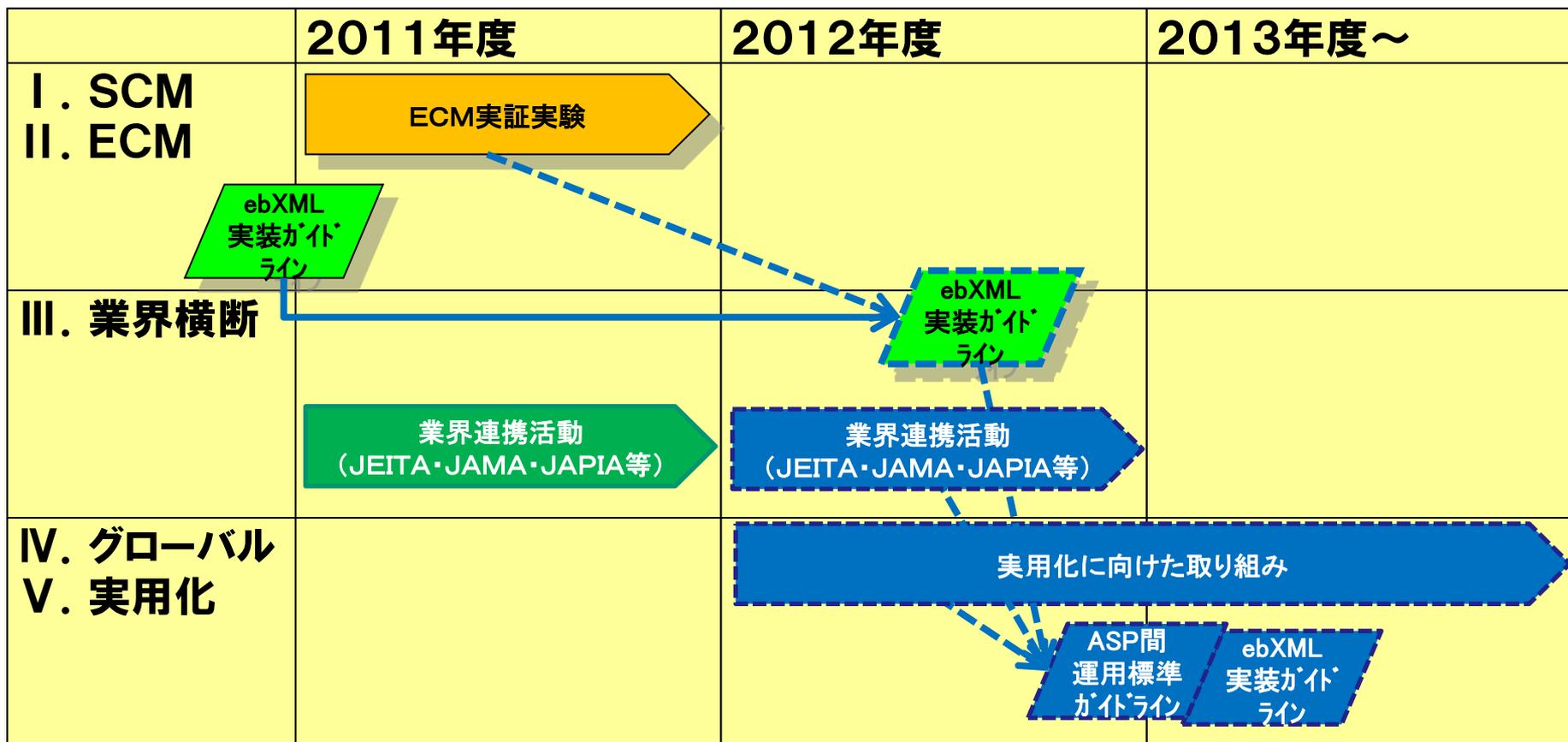
3-1 ⑥今後のロードマップ

- 今年度は、業界実用化と業界連携への橋渡しとして、ASP間運用標準ガイドラインとebXML実装ガイドラインをアップグレードしました。
 - ASP間運用標準ガイドラインは、2009年に発行したASP間運用標準ガイドラインをベースに、ECM実証実験を踏まえ、内容強化しました。
 - ebXML実装ガイドラインは、現ebXML2.0対応版を、ebXML3.0対応の業界横断実証実験ガイドを参考にし、ebXML3.0対応版に変更しました。



3-1 ⑥今後のロードマップ

- 今後は、SCM、ECMのトータルな実用化とともに、他業界横断やグローバル活用などに実用化にむけた取り組みを実施して行きたい。
 - SCMとECMを含むトータルな実用化を支援する。
 - 業界連携(たとえば、JAMA・JAPIAなど)を継続し、実用化を支援する。
 - グローバルな実用化を支援する。



3-2 ASP間運用標準ガイドライン の改訂内容

3-2 ①システムルール

システムルールは、インターネットやASP介したシステムの信頼性を確保するため、また、ワンポータル利用を実現するために、ASPが遵守すべきシステム仕様として規定した。

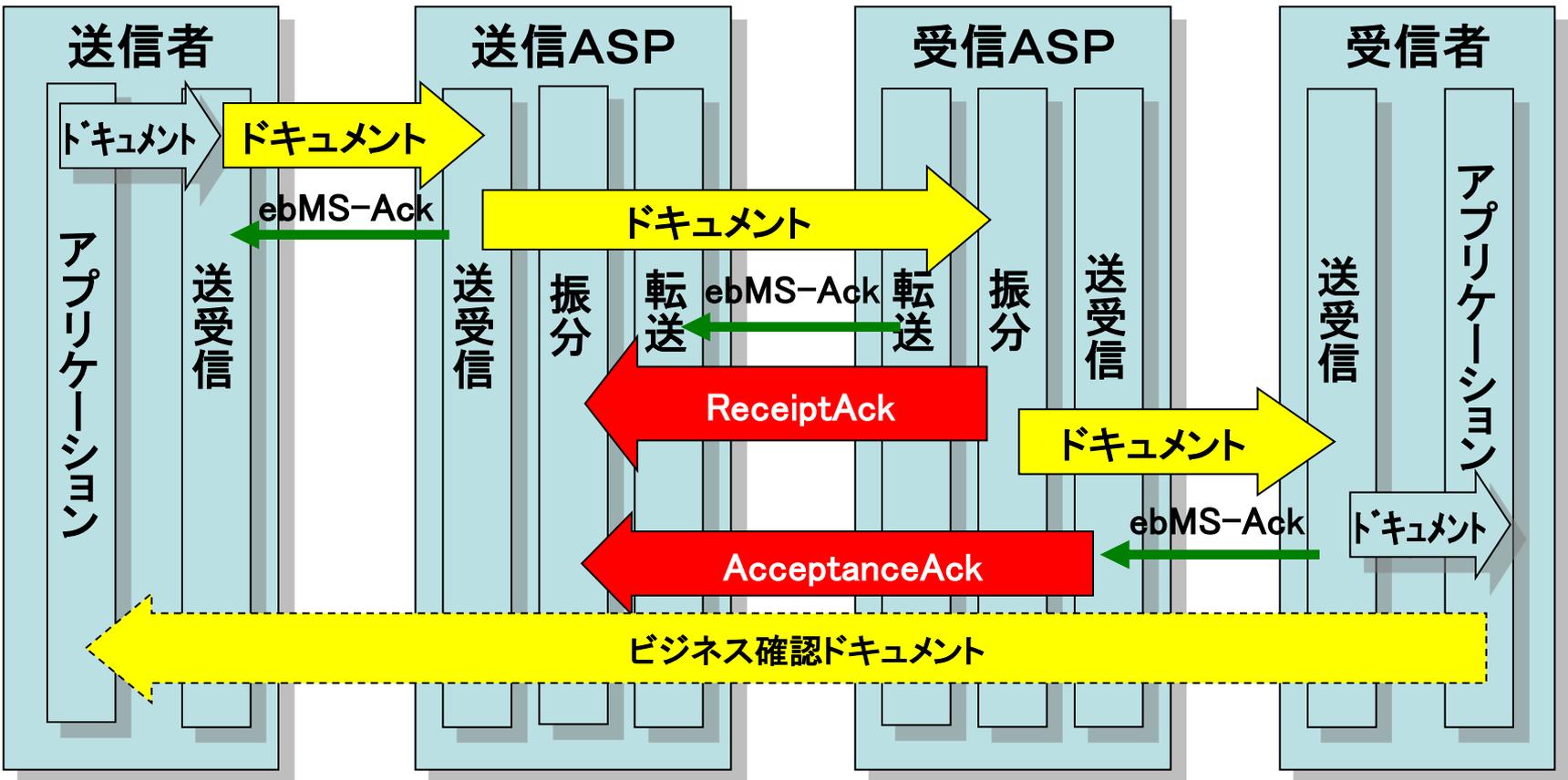
- ① 従来のVAN間仕様の継承のため、通信と振分のためのドキュメントヘッダの仕様を継承規定した。
- ② インターネットを介した信頼性確保のため、送達確認とエラーリカバリの仕様を新設規定した。

No.	分類		ASP間接続	VAN間接続
1	通信	通信環境	インターネット	公衆網、専用線
2		通信手順	ebXML手順(グローバル標準、SSL暗号化、ID認証)	全銀協手順
3	振分	ドキュメント (バージョン)	XML及びCIIドキュメント等任意のドキュメントを利用可能 (ECALGA Ver2003A以降、EIAJ 2J以降など) さらに、添付ファイルも利用可能(複数添付ファイルも可)	CIIドキュメント (EIAJ 1A以降)
4		ドキュメント ヘッダ	プロバイダコード+センタコード+送受信者コード+カンバセ ションID	プロバイダコード+センタ コード+送受信者コード
5	送達確認・エ ラーリカバリ	転送ファイル 単位	送達確認も意識したEDIタイプ (a)コラボレイティブEDIタイプ(カンバセションID単位) 1送信者-1受信者-1情報区分-1注番 (b)ベーシックEDIタイプ(情報区分単位) 1送信者-1受信者-1情報区分-M注番 (c)バッチEDIタイプ...>バッチ型転送 K送信者-L受信者-N情報区分-M注番	バッチEDIタイプ K送信者-L受信者-N 情報区分-M注番(送信 タイミングかつ伝送ファ イルサイズ単位)
6		送達確認	BPSS-Ack(グローバル標準) ①受信確認(ReceiptAcknowledgment) ②受領確認(AcceptanceAcknowledgment) ※BPSS: ebXML Business Process Specification Schema	受信確認 メッセージ
7		調整事項	CPA:(グローバル標準)、ASP間用共通CPA ※CPA: ebXML CPA Collaboration Protocol Agreement	個別交換

3-2 ②送達確認について

送達確認は、インターネットやASPを介して、システムチックに送達状態の確認と障害対処を実現するために、グローバルなebXML技術を採用し、送達確認仕様として規定した。

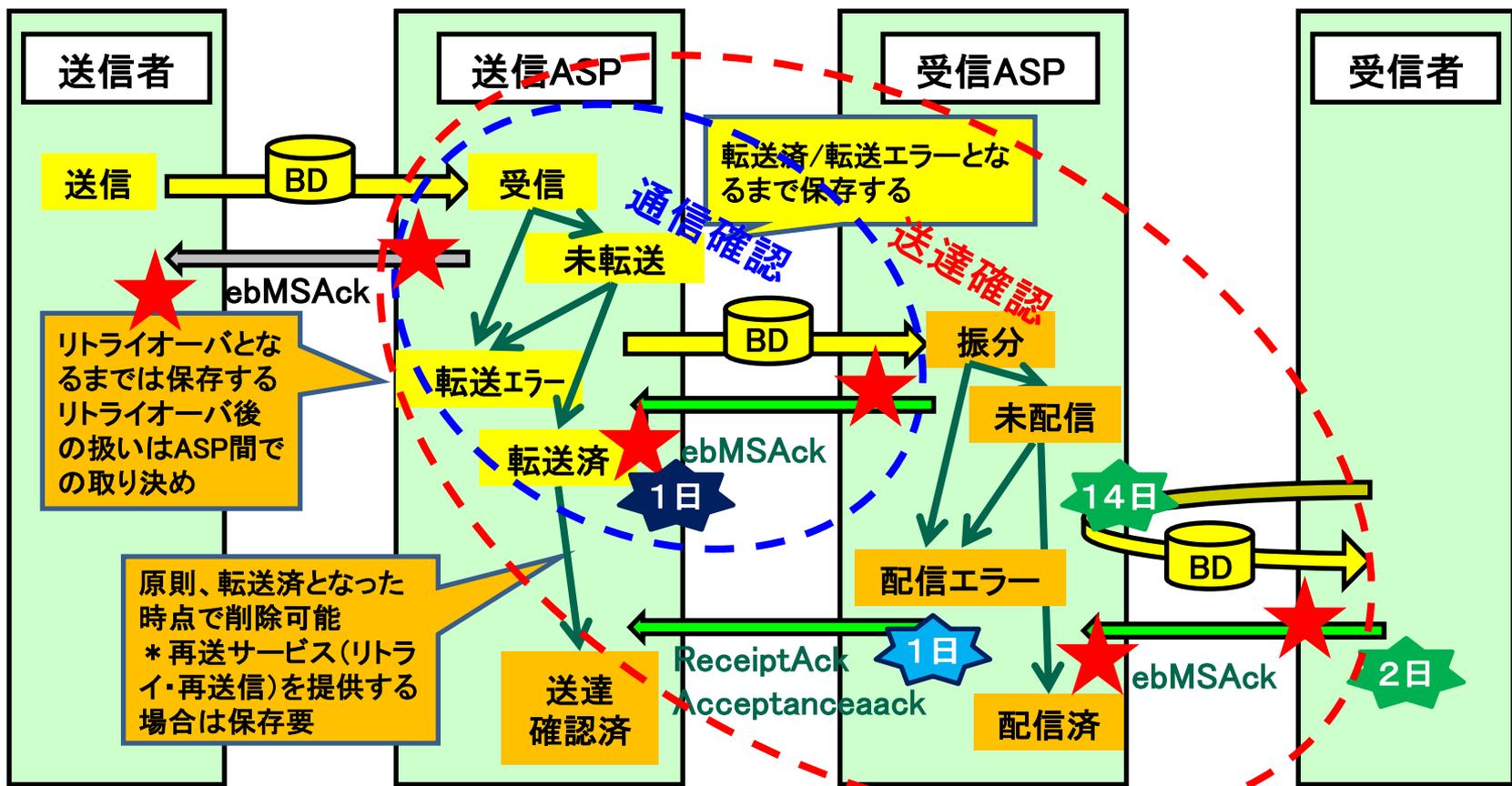
- ドキュメントと送達確認レベルにより確認シグナル仕様を規定
 - **ReceiptAck**: 受信ASPが、ドキュメントを受信・振分完了したとき送信
 - **AcceptanceAck**: 受信者が、受信ASPからドキュメントを受信完了したとき送信



3-2 ③送達確認の完了境界

責任分界は、データ保証と送達確認保証のため、通信確認と送達確認仕様として規定。

- 送達確認の完了境界：ebMSAckの送信と受信
- データ保存期間の例
 - 通信確認の保存期間 = 1日 = ASP間1日
 - 送達確認の保存期間 = 18日 = 通信確認 + ユーザ16日 + ASP間1日



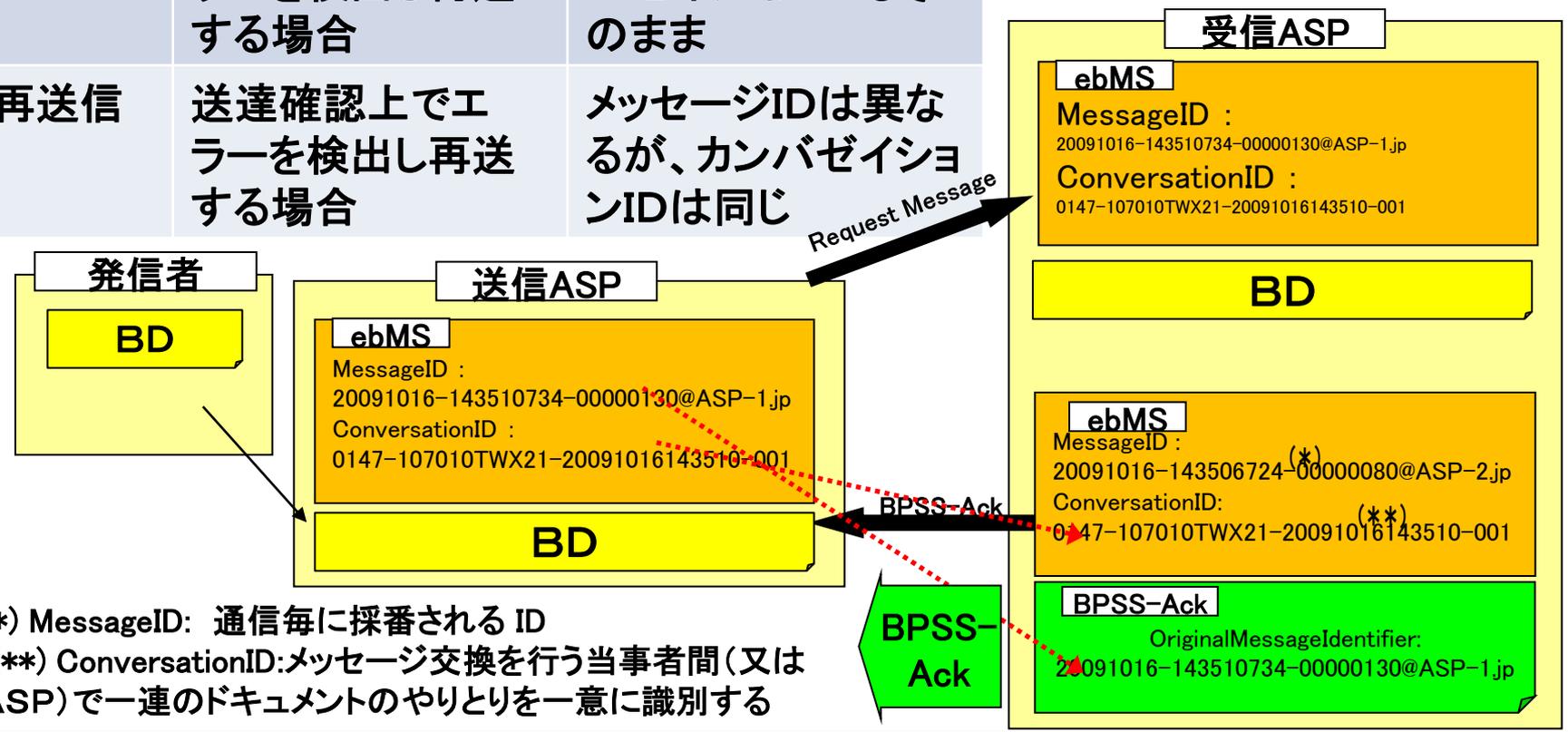
3-2 ④再送(リトライ、再送信)、再転送

ASP間の再送はリトライと再送信に、ユーザの再転送と区別して規定した。

- 通信レベル(メッセージとAck)はMessageIDを、
- 業務レベル(ドキュメント)はConversationIDを利用し紐づける。

名称	内容
再転送	利用者都合で再転送する場合

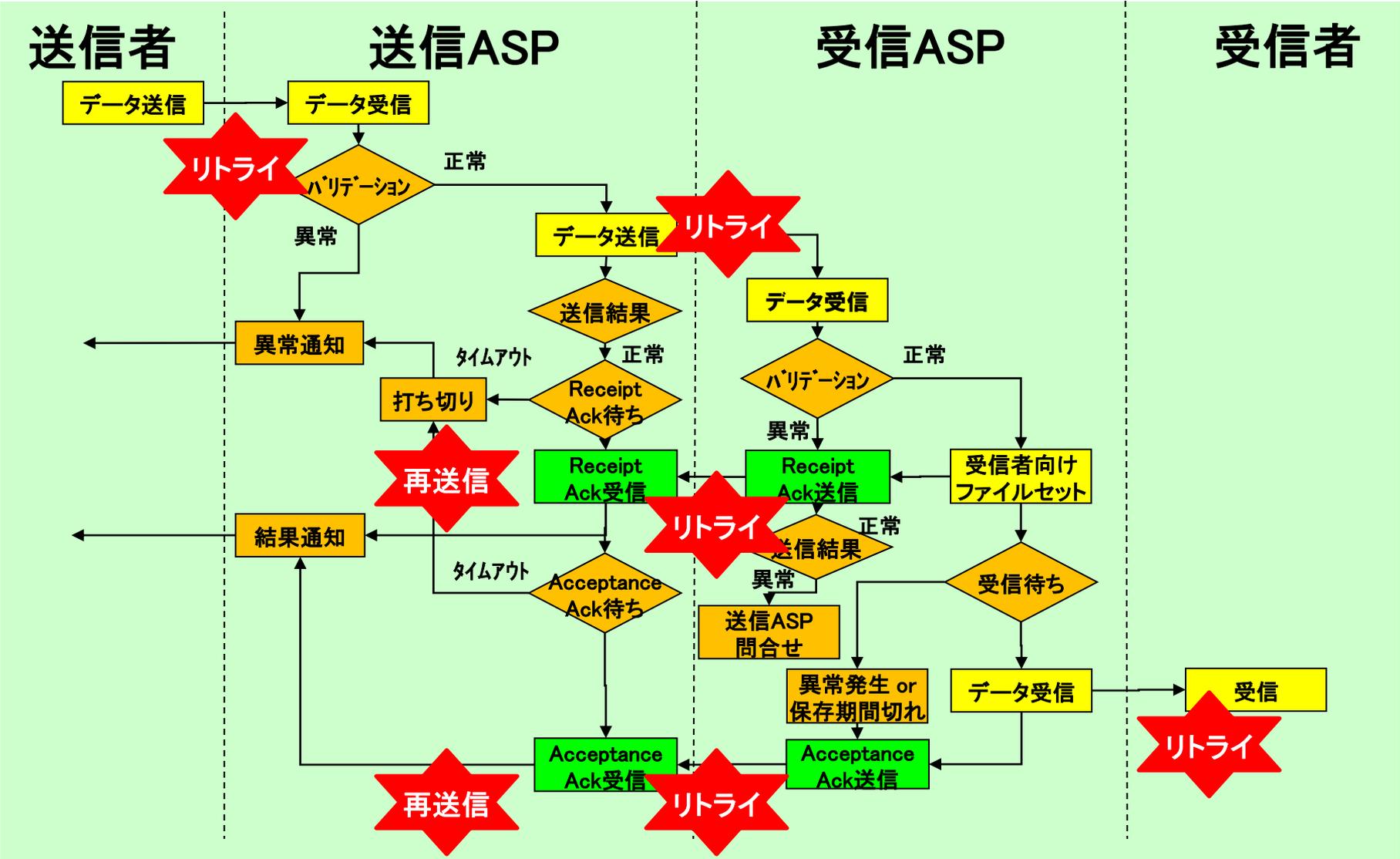
名称	内容	キー情報
リトライ	通信確認上でエラーを検出し再送する場合	メッセージIDも、カンバゼーションIDもそのまま
再送信	送達確認上でエラーを検出し再送する場合	メッセージIDは異なるが、カンバゼーションIDは同じ



(*) MessageID: 通信毎に採番される ID
 (**) ConversationID:メッセージ交換を行う当事者間(又はASP)で一連のドキュメントのやりとりを一意に識別する

3-2 ⑤再送(リトライ、再送信)

ASP間の障害対応として、送信ASPの再送、受信ASPの再送、ステータス通知仕様を規定



3-2 ⑥障害対応：ステータス通知

ステータス通知は、ASP間の障害対応として、エラー対処のシステム処理を実現するために、ASPが準拠しなければならないシステム仕様として規定した。

●エラーコードと、エラー内容やステータス通知方法を規定。

- ◆ 障害対応の自動化のため、ステータス通知(エラーコード)を規定。
- ◆ エラーコードにより、自動リトライ/再送可否を識別。
- ◆ エラーコード：正常、警告エラー、通信エラー、環境エラー、データエラー、アプリケーションエラー、ビジネスエラーなどのエラー内容を識別。

エラーコード	区分	エラー内容	用途
00番台	正常	正常	
10番台	正常	アプリケーション正常	アプリケーション上の処理結果正常
20番台	警告	警告エラー	一時的な異常
30番台以上	異常	異常エラー	対処が必要な異常
30番台	異常	通信エラー	通信上の異常
40番台	異常	環境エラー	動作環境上の異常
50番台	異常	データエラー	データ内容の異常
60番台	異常	アプリケーションエラー ・振り分けエラー ・アプリケーションの実行上のエラー	アプリケーション処理上の異常
70番台以降	異常	ビジネスエラー ・アプリケーションの業務上のエラー	業務処理上の異常

3-2 ⑦テスト方法:テスト手順

テスト手順は、ASP間のテスト効率化のため、導入レベルに即したテスト手順を規定した。

- ・ASP間接続の導入にあたってのテスト手順を規定。
- ・ASPやEDIの**環境情報交換の手順**
- ・ASP間とユーザ間の**確認テストのレベル**

ASP環境情報の交換



EDI環境情報(CPA)の交換



ASP、EDI環境(CPAファイル作成とマスタ情報)の設定



ASP間確認テスト(ASP間テスト)



ユーザ間確認テスト(エンドツーエンドテスト)

※CPA: ebXML Collaboration Protocol Agreement

3-2 ⑧テスト方法：導入ケース

確認テストは、ASP間のテスト効率化のため、導入レベルに即したテストレベルを規定した。

- 導入ケースにより、テストレベルを規定。
- 新規ASP間接続から、業務モデル(情報種)追加、ユーザ追加などの
- 導入ケースにより、ASP間やユーザ間の確認テストレベルを規定。
- さらに、SSLサーバ証明書交換などの、運用上のASPやEDI環境情報の交換としての確認テストレベルの規定。

#	導入ケース	ASP間確認テスト	ユーザ間確認テスト
1	ASP間接続新規/変更	(L1) 通信プロトコルテスト (L2) 通信手段テスト (L3) 業務テスト (L4) 異常系テスト	(U1) 疎通テスト (U2) 業務テスト
2	業務モデル追加/変更	(L3) 業務テスト	(U2) 業務テスト
3	ユーザ追加/変更/削除 業務ドキュメント削除 業務モデル削除 ASP間接続削除	実施しない	実施しない
4	SSLサーバ証明書更新	(L2) 通信手段テスト	実施しない

3-3 環境及び技術情報交換 実証実験評価による改訂

3-3 実証実験評価による改訂

環境及び技術情報交換実証実験で評価・抽出された課題と要望に対して、情報技術委員会及びASP標準WGで対応を検討し、ASP間運用標準ガイドラインにも反映し改訂した。

① ASP間運用標準ガイドラインに追加規定・・・2011年度改訂

★障害対応とステータス通知仕様を規定。

★複数ファイル添付を含む添付ファイル仕様を規定。

② JEITA共通クライアントやビジネス確認メッセージの取り扱い等を継続検討

・・・2012年度以降改訂予定

★ビジネス確認メッセージ取り扱いを継続検討

★JEITA共通クライアントの改善を継続検討。

★ASP当事者間調整事項の取り扱いを継続検討。

目次

4. JEITA Web-EDI 認定活動状況報告

4-1 認定制度の概要

4-2 ガイドラインの活用方法

4-3 認定制度の見直し

4-4 認定審査申請の流れ

4-5 認定状況（'11/4/1～'12/1/31）

4-1 JEITA Web-EDI 認定制度とは(1/2)

概要

Web-EDIガイドラインに適合している、ASP事業者、パッケージ、利用者を認定する制度

開始時期

2008年7月

目的

JEITA Web-EDI ガイドラインに沿ったWeb-EDIが構築されることで受発注者双方の業務処理が円滑に行われ、企業間取引のさらなる効率化が推進されることにより、EDIの普及促進を図る。

Web-EDIガイドラインとは？

Web-EDIの利用者に過度の不便さ、使い勝手の悪さ等の問題が発生しないよう、Web-EDI構築にあたって対応すべきあるいは対応することが望ましい事項についてまとめたもの

4-1 JEITA Web-EDI 認定制度とは(2/2)

審査方法

Web-EDI がドライン 認定チェックシートをご提出いただき、JEITA情報技術委員会にて審査します。

申請単位

Web-EDI の「パッケージ/サービス」単位 または、「利用者(企業)単位」

認定期間

2年

※更新申請を行わない場合は、認定取消となります

認定費用

無料

認定されると?

- ・JEITAより、認定されたWeb-EDIや拡販資料で利用可能な認定マークを発行
- ・JEITAホームページ上で、認定企業及びWeb-EDIシステムの名称が公開される為、標準化への貢献を広く一般にアピールできます。

4-2 ガイドラインの活用方法

【新規にWeb-EDIシステムを構築する場合】

- 自社で開発する場合：
本来のEDI機能実現に関する標準仕様として利用。
- ASPを利用する場合：
ガイドラインの内容をASP業者選択の際のチェック項目として利用。

【既にWeb-EDIシステムを提供している場合】

- システム改訂をする場合：
機能拡張やバージョンアップにともない、Web-EDIの改訂や見直しを実施する場合は、本ガイドラインの推奨機能の適応を検討いただくための基準として利用。

Web-EDIの運営、利用各社(ASP事業者・発注者・受注者)においては、本ガイドラインに沿って継続的に対応いただきたい

4-3 認定制度の見直し(1/4)

制度開始から約2年が経過した事を契機に以下の観点で見直しを実施

(1) 認定基準(ガイドライン、チェックリスト)

- EDIの現状を踏まえた基準の新設／改廃、及び重要度の変更
- 最新のJEITA/ECALGA標準(SCM(海外対応)、ECM)への対応
- 他業界の標準化動向の取込み
- 記述内容の分かり易さ

(2) 認定プロセス

- 条件付き認定フローの明確化

(3) 認定マーク

- 新しい認定基準に対応した視認性の向上

2011年9月より新基準 (Version 2) で運用開始

※ただし移行期間を考慮し、当面の間旧基準 (Version 1) でも受付

4-3 認定制度の見直し(2/4)

(1) 認定基準見直し概要

	Version 1.0	Version 2.0
全項目数	47	56[3]
削除項目	-	2
追加項目	-	11[3]
重要度別:◎[必須]	10	12[1]
重要度別:○[強く推奨]	20	23[1]
重要度別:△[推奨]	17	21[1]

※[]内の数字は海外取引に関する基準項目数

(2) Version 2での必須認定基準一覧(赤字が今回追加項目)

- 情報種、データ項目定義は、JEITA/ECALGA標準に準拠すること。
- 新着情報は、ファイルのダウンロード前に確認できること。
- ファイルをダウンロードできる機能を持つこと。
- 新着データファイルは一度にダウンロードできること。
- 必要に応じて、再ダウンロードできること。
- アップロード機能を提供する場合は、アップロード時のエラーを検知できること。また、エラーレコードのみをエラーとし正常レコードは処理する場合、処理順の追い越しが起きない事
- 国内利用時は、標準(統一)企業コード(JEITA/ECセンターで発番)を利用すること。
- SSLの実装などセキュリティを考慮する事
- VPN導入時はサポート体制を整える事
- 対応するOS、ブラウザバージョンを明確にしておく事
- 海外取引モデルに準拠したWeb-EDIを提供する場合は、情報種、データ項目定義はJEITA/ECALGA標準に準拠すること

4-3 認定制度の見直し(3/4)

(3) その他、Version 2で新たに追加した「強く推奨」「推奨」基準

■SCM標準関連

- ・(No.39)納品キー番号は基本タイプと項目不可タイプのいずれかをサポートする事
- ・(No.50)ファイルのダウンロード、アップロードが自動化可能な仕組みを提供すること

■ECM標準関連

- ・(No.29)電子部品に関する技術情報についてメッセージデータの他に添付ファイルをダウンロード・アップロードできること。
- ・(No.30)添付ファイルの内容や形式については、双方で事前に協議すること。
- ・(No.33)部品技術情報は、JEITA/ECALS辞書に準拠する事

■海外取引関連

- ・(No.55)ISO6523に則って登録された管理組織が発番する企業コードを使用する事
- ・(No.56)ダウンロード、アップロードファイルの文字コードはUnicodeとする事

※ASPやパッケージの利用者として申請し、かつ利用するASP、パッケージが既に認定されている場合は、以下の項目のみ満たしていれば、認定可能です。

- ①企業コードはJIPDEC発番を使用していること
- ②メッセージ項目は、ECALGA標準に準拠していること

4-3 認定制度の見直し(4/4)

Version1.0



Version2.0



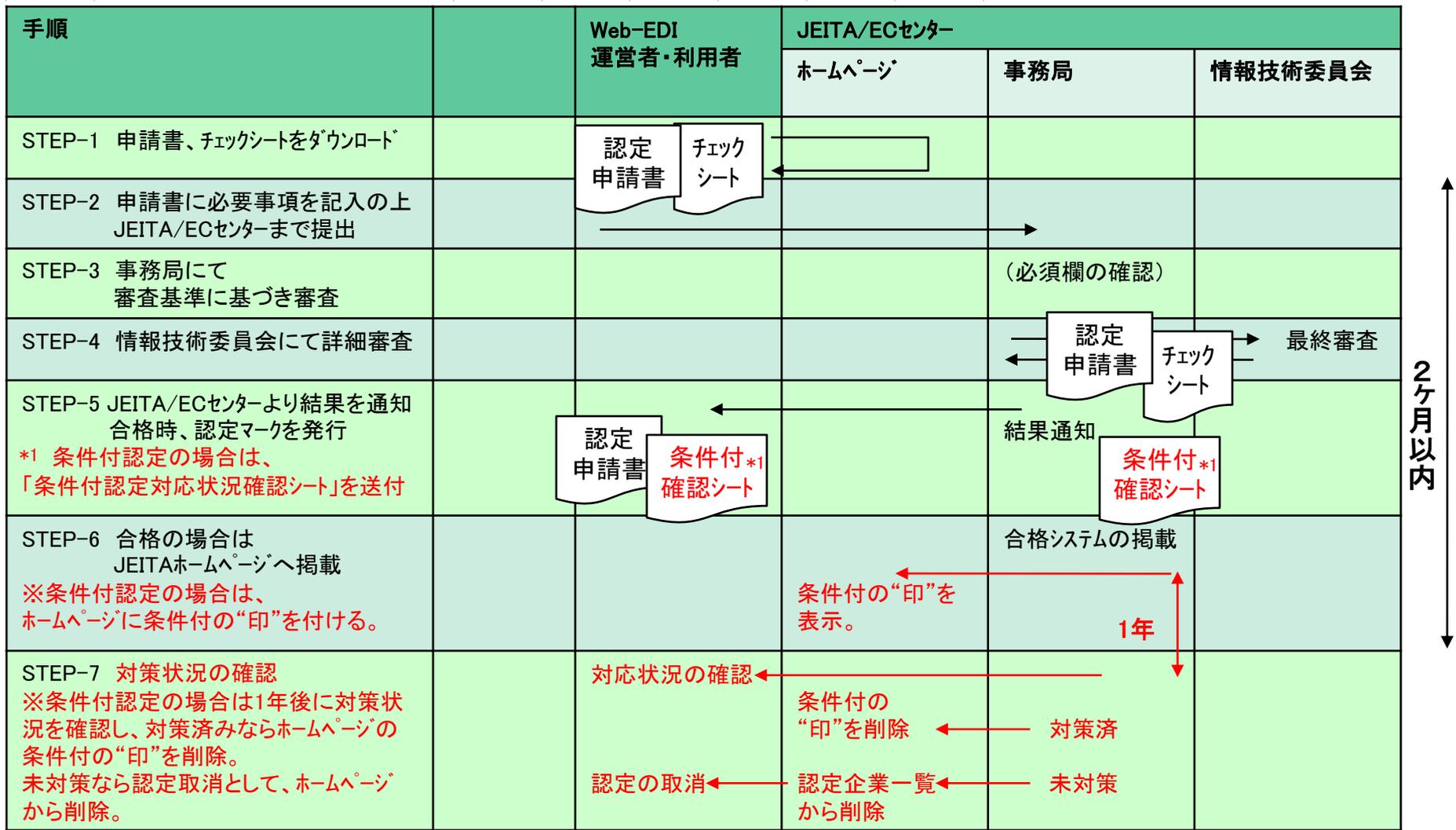
080701 G ASP Ver2.0 201207
認定番号 海外マーク 認定タイプ バージョン情報 年月(西暦)

<PERIOD:有効期限>

【認定タイプ】

- ASP : ASP サービス
- PKG : パッケージ
- ORG : 自社構築システム
- BUY : 発注利用者
- SEL : 受注利用者
- B&S: 発注&受注利用者

4-4 認定審査申請の流れ



※Version 2から条件付認定の運用プロセスを定義(赤字部分)

4-5 認定状況(2008/7/1~2012/1/31)

— 3年で16社14システムの申請を受け審査を実施 —

■認定状況(2008/7/1~2012/1/31)

(受付件数) 総数16社 - 14システム

- | | | | |
|------------|-----------|------------|-----------|
| ・自社構築システム: | 2社-2システム | ・パッケージソフト: | 6社- 6システム |
| ・ASPサービス: | 6社- 7システム | ・ASP利用者: | 3社 |

(認定件数)

- | | |
|---------------|-------------------|
| ・Version 1 認定 | <u>14社-11システム</u> |
| ・Version 2 認定 | <u>4社-3システム</u> |

■認定システム利用ユーザ(2012年1月 認定企業向けアンケート集計より、延べ社数を算出)

- ・Web-EDI 利用発注企業社数: 約680社 <= 前回調査(2010年)より130社増
- ・Web-EDI 利用受注企業社数: 約37,000社 <= 前回調査(2010年)より5,000社増

■認定企業一覧:(認定番号順)

(株)日立製作所、富士通(株)、日本電気(株)、大興電子通信(株)、
三菱電機情報ネットワーク(株)、(株)オービス総研、NECソフト(株)、TDK(株)、KOA(株)、
(株)オネスト、キャノンITソリューションズ(株)、(株)村田製作所、(株)ニュートラル、(株)東芝

✓ASPやパッケージ「利用者」からの申請を
広くお待ちしております。

✓本制度を利用者の皆様に活用頂く事により、
標準化の効果がより一層期待できると
考えております。

【JEITA ECセンター／Web-EDI ガイドライン ホームページの紹介】

<http://ec.jeita.or.jp>

申請方法ほか、認定企業一覧など各種情報を掲載しています。